さんないまるやま　つうしん

三内丸山通信

第21号
平成13年3月9日
青森県教育庁文化課

三内丸山遺跡対策室
〒030－8540　青森市新町2丁目3－1
TEL　(017) 722－1111 (内5251・2)
FAX　(017) 734－8280

三内丸山遺跡対策室　松原分室
〒030－0813　青森市松原1丁目14－11
TEL　(017) 774－0455
FAX　(017) 774－0456

木柱の年輪

木柱分析始まる

現在、木柱の詳しい調査が進んでいます。

年輪は語る

一月十日、年輪を詳しく調べるため、木柱を切断しました。

この木柱の材質はクリで、今年度に発掘調査をした第十九次調査区から出土しました。縄文時代中期後半（今から四千五百から四千年前）のもので、掘立柱建物の柱の根元部分が残っていました。大きさは直径約五十センチ、長さ約七十センチでした。

木柱は専門家により、さらに詳しい年代などを調べられることになりました。年輪は毎年一層ずつ増え、その年の自然環境などに影響されて年輪の幅は毎年変わります。年輪幅のパターンは、環境が近い地域であれば他の木でも共通します。同じ年輪幅のパターンを持つ木は、同時代に成長したことになります。現代から過去の木の年輪を少しずつ重ねていくことで、一年単位で年代を割り出すことができるのです。

これまで現在から約三千年前までのヒノキやスギなどの年輪年代は研究されていましたが、縄文時代のクリを使った本格的な研究はこれが初めてになります。

また、クリの年輪年代を調べると同時に、木柱に含まれる放射性炭素を調べて年代を測定し、年輪年代と照らし合わせ、より詳しい調査をする予定です。

木柱洗い作業

三内丸山遺跡報告会

3月18日（日）午前10時から
青森県総合社会教育センター・大研修室にて

発掘調査、日中共同研究、特別研究推進事業の成果報告を行います。

〈日　程〉

10：00～10：05　開会
10：05～10：35　平成12年度発掘調査成果報告
　泰　光次郎（青森県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室文化財保護主事）
10：35～11：00　日中共同研究成果報告
　岡田　康博（青森県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室文化財保護主幹）
11：00～11：35　特別研究報告その1（自然分野、公募研究）
　木村　勝彦（福島大学助教授）
　「縄文時代のクリ材の年輪解析による高精度編年の試み」
11：35～12：25　特別研究報告その2（自然分野、共同研究）
　辻　誠一郎（国立歴史民俗博物館助教授）
　「三内丸山遺跡における人と自然の交渉史Ⅲ」
12：25～13：25　休憩
13：25～14：00　特別研究報告その3（技術分野、公募研究）
　赤沼　英男（岩手県立博物館主任専門学芸員）
　「三内丸山遺跡における色材料の使用状況に関する基礎的研究」
14：00～14：50　特別研究報告その4（技術分野、共同研究）
　鈴木　三男（東北大学教授）
　「縄文時代のクリ材利用の技術史」
14：50～15：00　休憩
15：00～15：30　特別研究報告その5（社会分野、公募研究）
　阿部　義平（国立歴史民俗博物館助教授）
　「縄文時代の道と記念墓列の研究」
15：35～16：25　特別研究報告その6（社会分野、共同研究）
　小山　修三（国立民族学博物館教授）
　「三内丸山遺跡から見た遠近感—円筒土器文化圏における情報の広がりと地域圏の設定—」
16：25　閉会

報告会

調査結果の一部は、三月十八日に開催される『三内丸山遺跡報告会』で報告される予定です。また、三月二十日から五月二十日まで、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館で行われる企画展『縄文文化の扉を開く—三内丸山遺跡から縄文列島へ—』でも展示します。なお、この展示は六月から三内丸山遺跡でも行う予定です。

年輪サンプル採取作業

三内丸山 全国キャラバン 報告

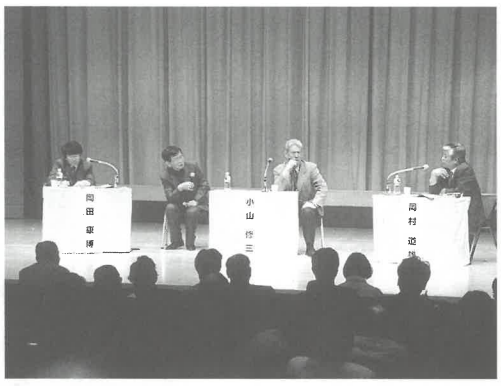
今年度から三内丸山遺跡の情報発信を行うため、全国キャラバンが始まり、各地でシンポジウムが開かれました。

東京シンポジウム

十一月十九日、有楽町朝日ホールで『三内丸山遺跡・シンポジウム2000』が開催されました。今回のテーマは「縄文遺跡大集合パート2―遺跡が語る縄文社会」です。

三内丸山遺跡の調査報告に続いて、全国の縄文遺跡の中で特に注目されている、恵庭市カリンバ3遺跡(恵庭市教育委員会・上屋真一さん)、是川遺跡(八戸市教育委員会・宇部則保さん)、青田遺跡(新潟県埋蔵文化財調査事業団・荒川隆史さん)、中ツ原遺跡(茅野市教育委員会・守矢昌文さん)から最新の調査状況についての報告が行われました。

パネルディスカッションでは、岡村道雄さん(文化庁主任文化財調査官)、小山修三さん(国立民族学博物館教授)らにより、発掘調査を通じて見えてくる縄文社会について、階層社会や交流・交易を中心に議論が交わされました。途中から佐原真さん(国立歴史民俗博物館館長)も加わり、楽しく、わかりやすいお話しを聞くことができました。

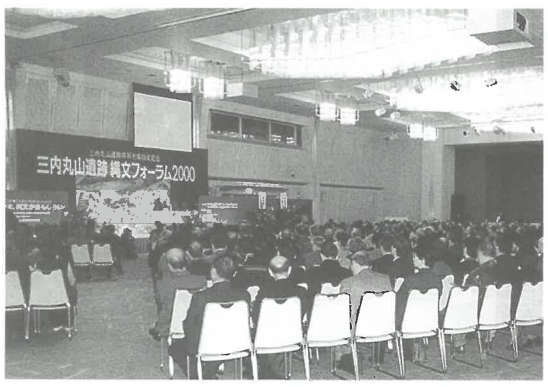

東京シンポジウム

青森フォーラム

十一月二十七日、『特別史跡指定記念三内丸山遺跡縄文フォーラム2000』が青森市内で開催されました。

まず、「自然・人・文化」として、森本哲郎さん(評論家)の記念講演がありました。続いて、今年度の発掘調査の成果報告、これまでの三内丸山遺跡の発掘調査の歩みについて報告が行われました。

パネルディスカッションでは、小山修三さん、岡村道雄さん、高田万由子さん(タレント)らにより、最新の考古学の成果をもとに「いま、縄文がおもしろい」として、縄文人度チェック、ファッション等について議論が交わされました。



青森フォーラム

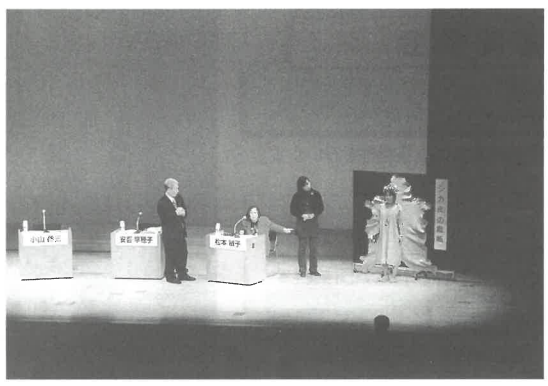
大阪シンポジウム

十二月九・十日には、大阪府吹田市の国立民族学博物館で『縄文シンポジウム2000in大阪』が開かれました。大阪でのシンポジウムはこれが初めてになります。

九日は三内丸山遺跡の発掘調査の歩みや今年度の調査成果について報告が行われました。パネルディスカッションでは「縄文経済学」として、米山俊直さん(大手前女子大学学長)、佐々木史郎さん(国立民族学博物館助教授)、小山修三さんらにより縄文時代の交流・交易について民族学の立場から検討されました。

十日は小山修三さんの司会で「縄文人は何を着たか―民族服飾学の視座―」というテーマで、松本敏子さん(日本服飾史学会会長)、安芸早穂子さん(画家)らにより、実際にモデルを使いながら復元した縄文服について紹介しました。

パネルディスカッションでは松本敏子さん、金子裕之さん(奈良国立文化財研究所研究指導部長)、石毛直道さん(国立民族学博物館館長)らにより、「縄文の宴―食文化とまつり―」について、それぞれの専門の立場から討論が行われました。


大阪シンポジウム

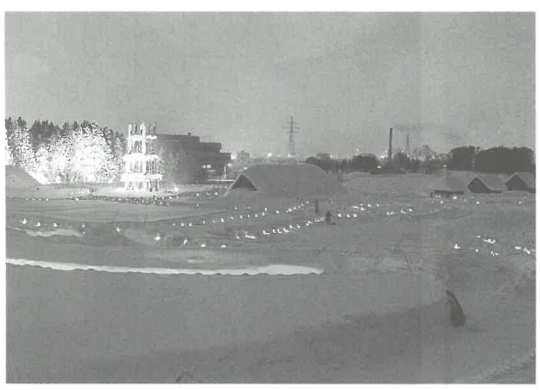
好評でした 雪ランド2001

二月十日から十二日にかけて『雪ランド2001』が開催されました。雪の降る中、三日間で約八千人以上もの参加者がありました。

クッキー作り

参加した人々は大型住居の中で餅をついたり、遺跡内をめぐるクイズラリーに挑戦したり、ストラックアウトやそり滑りを楽しんでいました。展示室の中ではまが玉や縄文ポシェット作りなどの体験学習、実物の土器を使った土器復元体験、クッキー作りをするなど、どのコーナーも大盛況でした。

雪ランド初日には約千人の参加者とともにミニかまくらが二千個以上作られました。夜には一つ一つに灯がともされ、ろうそくの淡い光が遺跡内を彩りました。また大型掘立柱建物も紫や緑の光でライトアップされました。


ライトアップ